

五橋中学校の取組

I 校内研究の概要

(1) 研究テーマ

生徒一人ひとりの応用力（思考力・判断力・表現力等）をはぐくむ授業の工夫
～各教科等における言語活動の充実を通して～

(2) テーマ設定の理由

学習指導要領が改訂され、応用力（思考力・判断力・表現力等）の育成において言語活動を中心に据えた授業づくりの重要性が大きくなつてきている。言語が介在しない学習活動は存在せず、確かな学力を身につけるためにも、あらゆる場面で様々な形の言語活動が必要とされる。各教科等での言語活動を軸とした指導方法をさらに充実させながら、生徒一人ひとりが自らの学びを深め、確かな学力を身につけるために、どのような言語活動が効果的であるかについて研究をさらに深化させることをねらいとし、この研究主題を設定した。

(3) 共同研究テーマとの関連

教育センター研究テーマ：応用力をはぐくむ授業の創造

～各教科等における言語活動の充実を通して～

教育センターが打ち出した「応用力」を本校ではより具体的に、思考力・判断力・表現力等ととらえた。これらはあらゆる授業において、計画的にかつ段階的に育成されるべきものである。言い換えれば、教師一人ひとりが担当する一単位時間の授業を大切にすることによって、生徒一人ひとりの力がはぐくまれる。そこで、教師の実践的指導力の向上を目指し、言語活動を軸にした日々の授業づくりに焦点を当てて研究を行ううえで、教育センター指導主事の先生方のご指導・ご助言をいただくことにした。

先にも述べたとおり、言語が介在しない学習活動は存在しないため、本研究においては、国語科に限らず全教科において「言語活動の充実」と「確かな学力」の育成を図っていくこととした。

II 研究の詳細

＝研究にあたって＝

①研究期間 3か年（平成20年度～22年度）

②重点教科の設定

○平成20年度 「応用力」、「言語活動」の解釈と実践

◆重点教科 国語・数学・道徳

○平成21年度 研究対象教科の拡大と実践、検証方法の追究

◆重点教科 理科・社会・英語

○平成22年度 外部への授業実践の提案、検証方法の充実

◆重点教科 音楽・美術・技術家庭・保健体育

*各教科等の研究は1年限りのものとせず、継続研究として取り組む。

＝研究組織＝

- 「研究は全員で」を原則とし、全教員が重点教科の専門部に所属する。
各専門部の活動内容：指導技法の研修，授業研究の計画・準備，指導案検討，
実践資料の整理・蓄積，授業検討会の実施

<平成20年度>

専門部	教員の所属
国語専門部	☆国語科主任 国語科 社会科 英語科
数学専門部	☆数学科主任 数学科 理科
道徳専門部	☆道徳主任 音楽科 美術科 技術家庭科 保健体育科

<平成21年度>

専門部	教員の所属
理科専門部	☆理科主任 理科 数学科
社会専門部	☆社会科主任 社会科 国語科
英語専門部	☆英語科主任 英語科 音楽科 美術科 技術家庭科 保健体育科

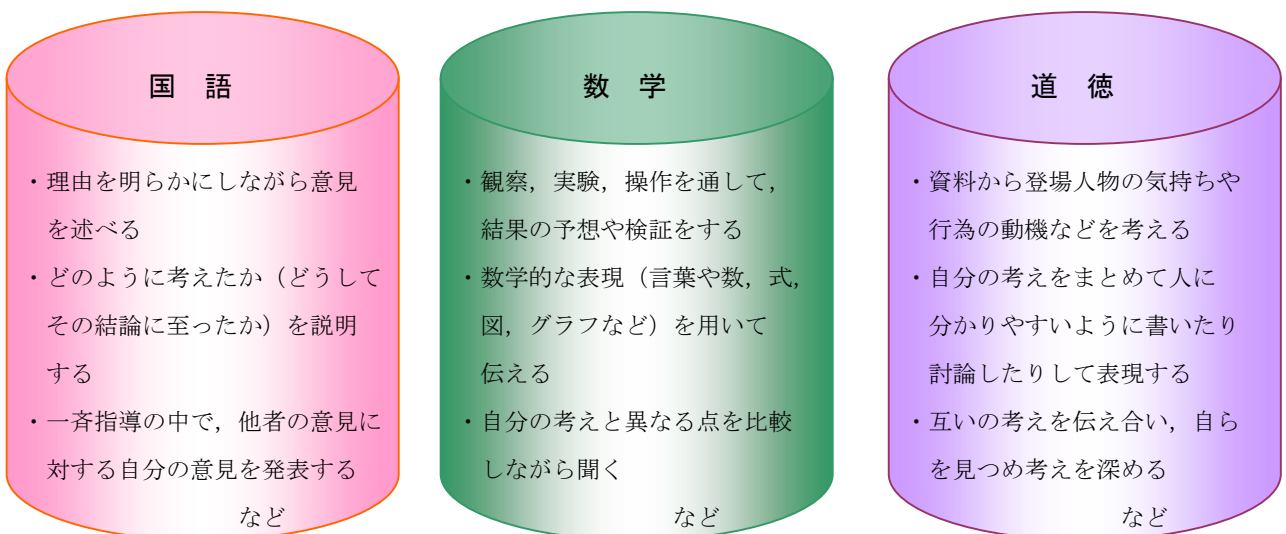
- 教育センターとの連携を図るために 研究連携部会
(センター指導主事・教頭・教務・研究主任)
- 小中との連携を図るために 三校連絡会
(センター指導主事・各校教頭・各校研究主任)
- 校内研究推進を図るために 研究推進委員会 (各教科主任・研究主任)
- 各教科の充実を図るために 教科部会・専門部会

＝昨年度の研究から得た成果＝

- 応用力をはぐくむための学習プロセス

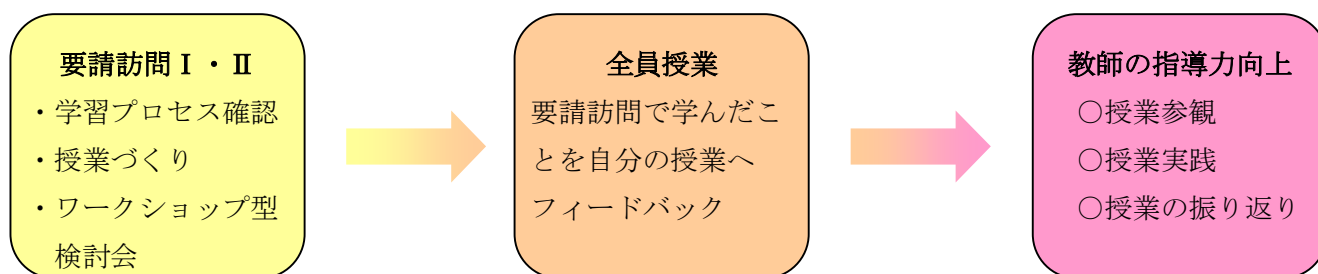


- 言語活動の具体 (国語・数学・道徳の授業実践より)

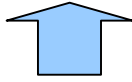


=今年度の研究の経過=

月	全 体	校内研究・専門部	教科部会
4	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会 ・教科外担当者決定 ・センター研修申し込み ・仙台市標準学力調査 ・全国学力調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究の概要説明（職員会議） ○専門部の所属と活動内容確認 ○センター指導主事との打合せ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇教科主任決定 ◇各教科研究テーマ決定 ◇年間指導計画検討 ◇評価規準表見直し
5		○研究推進委員会	
6	・1学期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ○要請訪問Ⅰに関わる指導案検討会 ●目指す子ども像作業部会 	◇学習ガイド（1年生用）編集
7	・要請訪問Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ○通信票作成に関わる共通理解（評価・評定について） ○研究授業（1回目）と授業検討会 ●目指す子ども像作業部会 	◇学力調査結果分析 全員授業
8	<ul style="list-style-type: none"> ・実力考査①（3年生） ・1学期期末考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究推進委員会 ●目指す子ども像作業部会 ●共同研究研修会①（講演会） 	◇通信票の記入について 全員授業
9			◇通信票作成 全員授業
10	・実力考査②（3年生）	<ul style="list-style-type: none"> ○要請訪問Ⅱに関わる指導案検討会 ●ルーブリック作業部会 	全員授業
11	<ul style="list-style-type: none"> ・実力考査③（3年生） ・要請訪問Ⅱ ・2学期中間考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業（2回目）と授業検討会 ●ルーブリック作業部会 ◆三校連絡会 	全員授業
12		<ul style="list-style-type: none"> ●ルーブリック作業部会 ◆三校連絡会 	全員授業
1	<ul style="list-style-type: none"> ・実力考査（全学年） ・校務反省（部会①） ・校務反省（全体会①） 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究のまとめ ◆三校連絡会 ●ルーブリック作業部会 ●共同研究研修会②（講演会） 	◇研究紀要作成 全員授業
2	<ul style="list-style-type: none"> ・校務反省（部会②） ・校務反省（全体会②） ・学年末考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究のまとめ * 調査研究発表会（全体・理科・社会・英語） 	◇研究紀要作成
3		○次年度の研究計画	◇通信票作成 ◇研究紀要（完成予定）



はぐくみたい応用力



応用力をはぐくむために各教科等で重視した学習活動

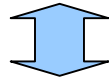
思考

発信

交流

再考

発信



言語活動の充実を図る視点

理科

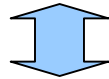
- ・ 仮説を考えること
- ・ 自分の考えを分かりやすく伝えること
- ・ 他者の考えを聞き、自分の考えを確認、修正すること

社会

- ・ 課題に対し、自分の考えをもつこと
- ・ 自分の考えを分かりやすく表現すること
- ・ 他者と考えを交流し、自分の考えを深めること

英語

- ・ 課題に対して自分なりの考えをもつこと
- ・ 自分の考えをより具体的に伝えること
- ・ 他者との交流で自分の考えや思いを深めること



言語活動の具体

理科

- ・ 実験、観察をもとに、結果や考察をまとめる
- ・ グラフ、図表なども用いて自分の考えを根拠をそえて伝える
- ・ 自分の考えを修正する
など

社会

- ・ 社会的事象との出会いから学習課題をつかむ
- ・ 調べたことを書いたり話したりして表現する
- ・ 社会的事象の意味について互いに伝え合い、多面的・多角的に考えを深める
など

英語

- ・ 既習事項を活用し、テーマに沿った英文を話す、書く
- ・ 内容構成や表現方法等を工夫しながら、考えや思いを発表する
- ・ 他の発表から自分の発表を振り返り、練り直す
など

継続してできること

II 実践例—③

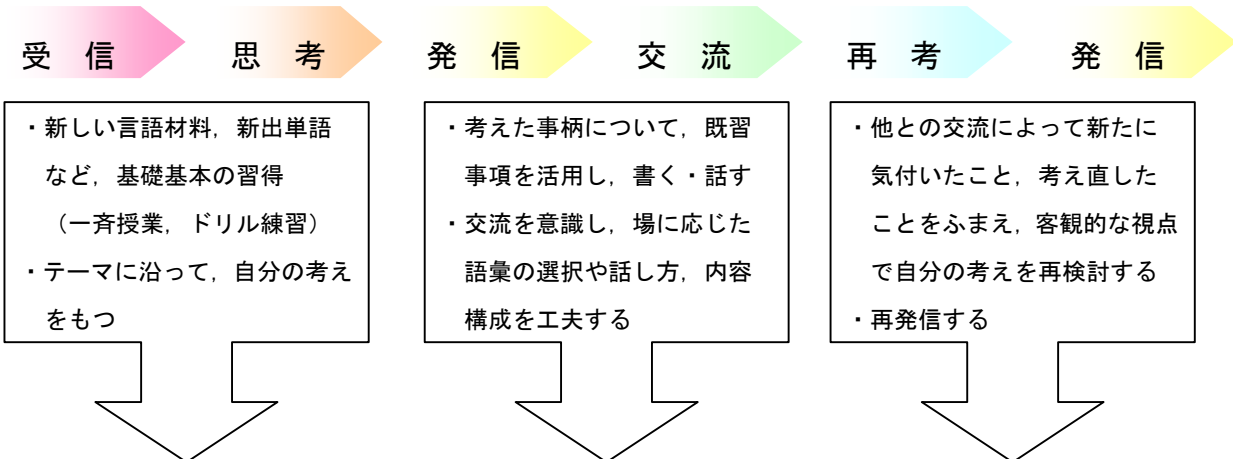
言語活動の充実を図った実践例 英語



- 単元構想における実践 : Multi Plus や Speaking Plus を生かした活動
- 発表集団の工夫 : 学年や経験, 発表課題 (テーマ) に合わせて
- 日本語を軸に考える : 内容構成, 語彙の選択, 構文の活用 など

<p>「わたしの夢」(2年生)</p> <p>将来なりたいもの, 行ってみたい場所, 挑戦したいことをテーマにしたスピーチ。小集団で発表する。</p>	<p>段階</p>	<p>「道案内-乗り物での行き方をたずねる・教える」(3年生)</p> <p>乗り物を使った道案内をより実践的な場面を想定し行う ALT との対話形式での発表。</p>
<p>○モデル文で学習内容を確認する 新出英単語, 「～したい」の表現, 内容の構成</p>	<p>受信</p>	<p>○モデル文で学習内容を確認する ・道案内の定型表現 ・新出英単語</p>
<p>○テーマに沿って, 日本語でスピーチ原稿を書く ○スピーチ原稿の作成 (英作文)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>聞き手の立場になり, 語彙や構成を工夫 (書き手の自己満足にならないように)</p> </div>	<p>思考 発信</p>	<p>○仙台市内の地図や路線図の情報を基に, 市内の主要な場所への案内を練習する ○エリアを宮城県内に広げ, 同様の練習を行う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>地図や路線図を見ながら書いて確認</p> </div>
<p>○グループ (4～5人) で発表① →構成メンバーを変えて発表②</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>1回目の発表後, 2回目の発表を意識させ, 自分自身の発表を見直す</p> </div> <p>○2回の発表を通して, もっとも印象に残っている友だちのスピーチを簡単にレポート (リライト) する。</p>	<p>発信 交流 再考 発信</p>	<p>○ALT が旅行者を装い, 生徒に道案内を求める 生徒は抽選で順番に指名され, 全体の前でALT との1対1の対話で道案内を行う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>他の発表の様子から, 使ってみたい表現を学び, 自分の発表にいかす</p> </div>

英語科で取り組んできた言語活動例



さまざまな活動を段階的・継続的におりませながら, 学習したことを体系化させることで応用力を育成

II 実践例②

言語活動の充実を図った実践例 社会

単元名：「近代日本の歩み」（本時4／5時間 新しい外交関係を求めて）

ねらい：○資料を基に、岩倉使節団について調べ、明治新政府の外交の目的について理解する。

○征韓論をめぐる対立から、日本の朝鮮に対する姿勢について多面的・多角的に考える。

	学習活動・発問 等	指導上の留意点
思考①	<p>岩倉使節団には、どんなねらいがあったのだろう。</p> <p>○資料（写真、年表、地図等）から使節団の目的について考える。</p> <p>○使節団が帰国後に進めた政策について考える。</p>	<p>社会的事象の意味について、資料を正確に読み取る。</p> <p>○当時の使節団が、条約改正を目指して、多くの時間と努力が必要であったことを想像させる。</p> <p>○新政府の外交政策について資料を基にとらえさせる。</p> <p>○「征韓論」で対立した両者の意見をそれぞれの立場で考え説明できるようにする。</p>
	<p>日本と朝鮮との関係をめぐって対立した西郷隆盛と大久保利通の対立について考えよう。</p> <p>○資料を基に、自分の考えをもつ。</p> <p>資料等から見いだした複数の社会的事実を関連付ける。</p>	
思考②	<p>○自分の考えをまとめ、根拠を明確にしなが、相手に分かりやすく伝える。</p> <p>○グループで意見交流を行い、多様な考えがあることを知る。</p>	<p>○日本と朝鮮との関係についておさえる。</p>
発信	<p>○自分の考えを見つめ直す。</p> <p>○全体で話し合う。</p>	
交流		
再考		
発信		

社会科で取り組んできた言語活動例

考えをもつ	<p>○社会的事象の意味について、資料を正確に読み取る。</p> <p>○資料等から見いだした複数の社会的事実を関連付け、課題について意欲的に調べようとする。</p> <p>○既習事項や資料等をもとに、課題を解決するための根拠を明確にする。</p>
考えを表現し、発信する	<p>○身近なことと照らし合わせながら、考えを伝えようとする。</p> <p>○考えたことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>○社会的事象を多面的・多角的にとらえ、考えた過程を説明する。</p>
交流し深め再考する	<p>○テーマをおさえながら話し合いに参加する。</p> <p>○他の意見と比較しながら、自分の考えを発表する。（共通点・相違点に気付く）</p> <p>○他の意見と比較しながら、自分の考えを深める。</p>

II 実践例—①

言語活動の充実を図った実践例 理科

単元名：「大気圧」（「身のまわりの現象」1分野上）

ねらい：身近な事物・現象について観察・実験を通して，光や音の規則性や力の性質について理解するとともに，これらの事象を日常生活と関連づけて科学的に見る見方や考え方を養い，光・音・力の働きに対する興味・関心を高める。

	学習活動	指導上の留意点
思考	<p>○仮説を考える</p> <p>演示実験：新聞紙で押さえた割り箸を割る実験</p>	多様な考えを引き出す。
	<p>課題：空気に重さがあることを調べ，それにより力が加わっていることを知る</p> <p>○本時の課題を把握する。</p> <p>○班での話し合い（自分の考えを伝える）</p>	
発信	<p>実験1：空のペットボトルと空気を詰め込んだペットボトルの重さの違いを見る</p> <p>実験2：注射器の中に発泡スチロール（立方体）を入れピストンを押して変化を見る</p>	
	<p>○実験の結果をまとめる（考察）</p> <p>○班での話し合い（考えの確認・修正）</p> <p>○見出した考えを一般化する</p> <p>○まとめた考えを発表する</p>	<p>実験の結果を正しくとらえさせる。</p> <p>結果や考察をもとに考えを修正させる。</p> <p>生活体験と併せて，科学的な概念をまとめさせる。</p> <p>考えを確かにする検証実験をさせ，気付かせる</p>
交流		
再考		
発信	<p>検証実験：袋菓子を透明容器に入れ，容器の空気を抜いて変化を見る</p> <p>○空気を除くことにより，周りからの力が弱くなることを体感する</p> <p>（山に登ったときの菓子袋の変化体験から）</p>	

理科で取り組んできた言語活動例

考えをもつ	<p>○事象をもとに仮説をもつ</p> <p>○実験や観察をもとに，結果や考察をまとめる。</p> <p>○仮説と実験観察結果や考察の整合性を検証し，新たな考えをまとめる。</p> <p>○生活体験や社会と結びつけて，事象をとらえる。</p>
伝える 説明する	<p>○自分の考えを言葉やグラフ，図，表などを用いて伝える。</p> <p>○実験や観察の結果をもとに思考の過程や判断根拠を分かりやすく伝える。</p> <p>○ペアやグループ等での話し合いの結果を分かりやすくまとめ，判断の根拠を示しながら全体に伝える。</p>
再考する	<p>○他者の説明を聞き，話の趣旨をとらえて自分の考えを修正する。</p> <p>○実験や観察の結果をもとに，自分の意見（仮説）を修正する。</p> <p>○見いだした結論が生活体験の中にあることに気付き，その例を想起する。</p>

今年度の研究をふりかえって

生徒の変容

- グループによる話し合い活動の積極的導入により、自分の意見をしっかりとした根拠や理由をつけながら発表できる生徒が多くなってきている。
- 身近なことや生活体験と結びつけて、さまざまな事象をとらえられる（とらえようとする）生徒が多くなってきている。
- 他の考えや意見を聞き（読み）、自分の考えや意見をより深めようとする生徒が多くなってきている。
- 国語の時間を中心に学んだこと（話し方・考え方・話し合いの進め方など）をいろいろな授業や活動に活用してみようとする生徒が多くなってきている。

研究推進

- 研究テーマの目指すものについて、多くの教科で共通理解を深めながら実践することができた。
- 小学校との連携も視野にいたした「目指す子ども像」や「ルーブリック」について見通しをもつことができた。
- 多教科にわたり教育センターと継続研究を行うことができた。
- 思考→発信→交流→再考→発信の一連の流れを意識した授業づくりが日常的にそれぞれの教科で行えるようになってきた。

次年度の課題

- 5教科や道徳同様、技能教科においても共同研究の成果を広げていくこと。
- 話し合いにおいて、意図的なグループの組ませ方（構成メンバーの工夫）や人数について、もっとも効果的なものを実践を通して探ること。
- 教師だけでなく、生徒や保護者にも分かりやすい「応用力」の評価について明らかにすること。
- 日常の指導の中で言語環境を整えること。
- 小学校との連携も視野に入れた応用力の育成をさらに推進すること。